

「せとか」の高糖度果実安定生産対策

「ヒリュウ台」活用で糖度が1、2上がる

中晩生かんきつ「せとか」
（清見×アンコール）×マー

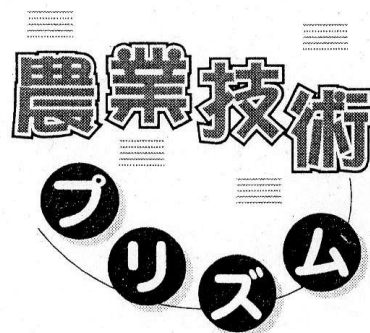


表 台木の違いと少加温栽培「せとか」の果実品質

調査年	台木	果実重 (g)	果肉歩合 (%)	果形指数	着色 a/b値	糖度 (Brix)	酸含量 (g/100ml)
2013年	ヒリュウ	218.4	86.0	121.0	0.52	14.5	0.94
	カラタチ	232.8	87.6	122.4	0.49	12.5	0.86
有意性 [※]		n s	*	n s	*	**	n s
2014年	ヒリュウ	195.7	84.7	122.0	0.45	14.5	1.18
	カラタチ	222.5	87.9	125.1	0.42	12.9	1.08
有意性		**	**	n s	*	**	n s
2015年	ヒリュウ	221.6	86.4	123.9	0.46	13.9	1.09
	カラタチ	242.5	87.3	120.8	0.44	12.5	1.15
有意性		n s	n s	n s	*	**	n s

[※] t検定により、**は1%水準、*は5%水準で有意差あり
注) 分析日：2013年2月5日、2014年2月6日、2015年2月9日

コット)は、外観がきれいで皮もむきやすく無核で食べやすい良食味品種で、市場や消費者に人気があります。
しかし、外観が滑らかな半面果皮が傷つきやすいため、風ずれ対策として施設で周年被覆裁

培されていますが、糖度の低下や隔年結果の傾向が見られます。そこで、一般的なかんきつの台木「カラタチ」の変種でわい性な生育をする「ヒリュウ」を台木として利用した「せとか」の高糖度果実安定生産対策について検討しました。

2013年から3年間果実品質を調査した結果、両台木とも果実重は200g程度で大差ありませんでしたが、糖度はヒリュウ台がカラタチ台より1、2度高い、おおむね14度の果実が生産できました(表)。また12年から4年間のヒリュウ台の10^ル当たり換算収量は、平均3・8tでカラタチ台の約80%でした。

ヒリュウ台苗10年生の樹高は2^ル程度に抑えられており、非常に作業性が良いことが分かりました。

(県農林技術開発センター果樹・茶研究部門カンキツ研究室 山下次郎)